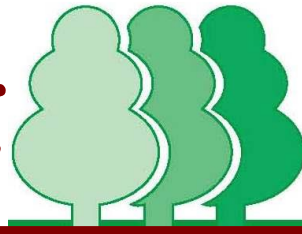


工場にみどりを

茅ヶ崎地区工場等緑化推進協議会



第52号

令和2年3月発行

事務局：トピー工業株式会社
神奈川製造所

連絡先：茅ヶ崎市 都市部 景観みどり課
電話：0467-82-1111（内線2334）

撮影場所：坂西精機株式会社周辺

自然環境に配慮した事業運営がなされ、ホタルが生息している森林

発刊に寄せて



茅ヶ崎地区工場等緑化推進協議会
会長 田村 久男

茅ヶ崎地区工場等緑化推進協議会の皆様には、日頃より当協議会に対する取組みをご理解いただき、誠に有難うございます。第52号発刊にあたり、御挨拶を申し上げます。

一年を振り返ると昨年も様々な出来事がありました。平成の天皇陛下が退位され、皇太子徳仁親王殿下が、第126代天皇に即位され皇位継承に伴い、元号が「令和」になりました。消費税率が8%から10%に引き上げられ、同時に外食と酒類を除く飲食料品等の税率を8%に据え置く「軽減税率制度」が導入されました。

自然災害では、台風が関東地方に上陸したものとしては観測史上最強クラスの勢力で、千葉県を中心に甚大な被害となりました。また、東日本でも記録的な大雨で、自治体が作成したハザードマップの浸水想定区域外においても、各地で被害が発生しました。

当協議会は1980年に発足し、本年で40年となります。今一度緑化ということの本質、何のために緑化をするのか、という基本的な問いに答えるためにも、生物多様性や自然再生という考え方は極めて重要であると思いますので、皆様ならびに事務担当である茅ヶ崎市景観みどり課と、一緒に自然環境保全活動の輪を広めていきたいと思っております。

御協力していただきました皆様方に心から御礼を申し上げますとともに、益々の御発展と、会員各位の一層の御活躍と御健勝を祈念いたします。今後とも、皆様の温かいご支援ならびに御協力を賜りますようお願いいたします。

令和元年度総会

令和元年5月31日に、茅ヶ崎市役所本庁舎会議室で、令和元年度茅ヶ崎地区工場等緑化推進協議会の総会を開催しました。

トピー工業株式会社 田村久男会長の挨拶に始まり、平成30年度事業報告、収支決算報告、監査報告の説明があり、承認されました。

引き続き、令和元年度事業計画（別掲）、収支予算、役員企業退会に伴う幹事職の補充についての説明があり、原案どおり承認されました。



令和元年度事業計画

事業名	実施月
役員会	4月、8月、1月
総会	5月
里山等保全事業（清水谷）	4月
里山等保全事業（相模川河畔林）	6月
視察見学会	10月
会員事業所見学会・研修会	11月
機関誌「工場にみどりを」発刊	3月
PRのための種子の配布	3月
会員の増強	年間

令和元年度役員

敬称略

役職	企業名	氏名
会長	トピー工業株式会社	田村 久男
副会長	モリタ宮田工業株式会社	鈴野 浩史
副会長	茅ヶ崎市緑化事業協同組合	清水 賢一
会計	TOTO株式会社	上原 幸作
監査	神奈川中央交通株式会社	山岸 浩二
監査	ナストーア株式会社	高橋 政登
幹事	株式会社オーテックジャパン	皆川 憲幸
幹事	AGCセイミケミカル株式会社	山下 純一
幹事	東邦チタニウム株式会社	河野 通晴
幹事	東海カーボン株式会社	穴戸 大樹

私たちの会社（東海カーボン株式会社）

東海カーボン株式会社 穴戸 大樹

当社は1918年4月に東海電極製造株式会社として創立され、1975年6月に社名を現在の東海カーボン株式会社に変更しました。1938年6月に茅ヶ崎の地に工場が完成し以降、行政・地域住民の方々の理解を得ながら現在も日々生産活動に勤しんでいます。

私が勤務している摩擦材事業部・湘南工場では、主に大型バイク（250cc以上～）向けのブレーキ製品、建設機械、農業機械向けのブレーキ製品、クラッチ製品を生産しています。ブレーキ製品は摩擦力でスピードを減速させ、クラッチ製品は摩擦力で動力伝達をコントロールしています。どちらの製品群も摩擦力を介して、ブレーキ製品はドライバーの安全、クラッチ製品は機械や乗り物を最適に動かすという重要な役割を担っています。故にお客様からの性能要求はシビアですが、それに対応し、お客様の安全を担保できる製品を提供し続けています。



湘南工場の緑地管理は年間計画を立案し、外部の専門会社に委託して緑地の維持管理を実施しています。工場内に新たな建屋や倉庫の設置場所に樹木があった場合には移植し、緑地の維持に努めています。

過去に、桜の木を工場内のメイン道路沿いに移植したことがあります。今でも毎年、春には満開となり全従業員の心を和ませてくれます。また、工場内には花壇もあり季節に応じた花の種を蒔き来場者をお出迎えします。これからも緑地の維持管理だけで

はなく、更なる緑地面積の拡大を目指し工場一丸となって緑化推進に取り組んでいきます。

今後も生産活動を維持運営していくために、当社の経営理念である『信頼の絆』に則り、法令遵守はもちろんのこと、地域社会の皆さまとの信頼関係をさらに深めて参ります。地域社会との共生を重視し、臭気、騒音、大気汚染等の環境面にも十分配慮し、全社挙げての環境目標である『環境クレームゼロ』の継続を目指していきます。



里山等保全事業【清水谷（しみずやと）】 平成31年4月23日

BASF ジャパン株式会社 久米 正樹

里山等保全事業への参加で、清水谷の竹林に訪れたのは2回目です。今回は会員企業5社より8名、茅ヶ崎市職員2名、「清水谷を愛する会」より6名が参加し、総勢16名で保全活動を行いました。作業自体は、約2時間ほどでした。



竹は成長が著しく早く、人の手が入らないと里山ではすぐに竹林の周辺環境に影響を及ぼして、里山環境が好ましくない状況になるそうです。

前回参加した時は、竹の伐採が主な作業でしたが、今回は、伐採した竹を人力で竹林の中から竹林周辺部の一時保管場所へ運び出したり、積み上げたりしました。作業場所は竹林の南斜面で、平坦な場所はほとんどなく足場の確保が重要でした。竹の運搬方法はリレー方式で効率が良かったように思いました。

私たちが一時保管場所へ運び出した竹は、今後チップに粉碎されると「清水谷を愛する会」の方よりお話をうかがいました。

里地里山の保全活動は、生物多様性に関する活動であると政府に位置付けられていて、里地里山と生物多様性の関係は、環境省のwebサイトでも公開されています。関連する法令は、環境基本法、生物多様性基本法、生物多様性地域連携促進法等が制定されており、国、地方公共団体、事業者、国民及び民間の団体の責務が条文にあります。

田舎育ちの私にとって里地里山は懐かしい場所です。子供の頃は、里地里山が遊び場で「SDGs目標15：陸の豊かさを守ろう」にある「持続可能な利用や管理」、「生物多様性損失の防止」にどれくらいの労力が必要か考えることはなかったです。社会人となった現在では、経済活動との関係性が見えてきます。



今後も引き続き、保全活動に事業者として参加していこうと考えています。

人間がいなければ、生物多様性の問題そのものが存在しないというパラドックスがありますが、個人としては、自身ができる範囲で無理なく活動することが、長く続けていくための重要な要素と思う、今日この頃です。

東邦チタニウム株式会社 河野 通晴

当協議会では毎年、里山等保全事業の一環として、相模川河畔林の保全事業を行っています。

今回は会員企業 6 社より 8 名、茅ヶ崎市職員 2 名が参加し、午前中から現地の自然環境保護を目的として、保全活動を行っている市民団体「相模川の河畔林を育てる会」の指示の下、外来植物の除去・抑制管理を開始しました。



本格的な夏が始まる前でしたが、気温もそこそこ上がり、屋外での除草作業では熱中症も予見されたので、オーテックジャパン株式会社様より御支給いただいた水分をこまめに摂取する等、健康管理にも気を使いながらの作業となりました。今回も従前の経験から、刈払機を使用する部隊を投入し、効率的な作業を！と目論見ましたが、樹木に巻き付いたツタ類の除去に苦労していたようです。一方で、人海戦術の一員として、鎌で外来植物を根こそぎ除去するよう作業していた私は、中腰の姿勢のまま 30 分ほどで腰痛に近い状態となり、こまめに休息をとりながらの活動となりました。

自分の持ち場はたった 10 m²程度ではありましたが、作業終了時には見違えるほどに、すっきりした状態となっており、大変満足のいく結果でした。ましてや、刈払機を用いた皆さんの区域は、作業後には別世界のように視界が広がっていて、青空が見えるほどの様相となっていました。ツタ類と悪戦苦闘した成果が、はっきりと確認できました。

年一回の事業ではありますが、この保全活動が少しでも相模川河畔林や里山等保全事業に貢献する一助となり、工場の緑化意識向上に繋がるように、継続していきたいと思えます。



視察見学会 昭和電線ケーブルシステム株式会社 相模原事業所

坂西精機株式会社

令和元年10月16日

茅ヶ崎市 都市部 景観みどり課

「茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会」と合同で、相模原市にある昭和電線ケーブルシステム株式会社 相模原事業所、東京都八王子市にある坂西精機株式会社の二社を見学しました。両事業所とも工場緑化の推進及び工場内外の環境に顕著な功績があった工場を表彰する「緑化優良工場等表彰制度」で日本緑化センター会長賞を受賞しており、今回は工場内の緑化推進や保全に対し、特に力を入れている事業についてご紹介いただきました。



昭和電線ケーブルシステム株式会社では、約1万㎡の緑地を管理する担当部署を設け、枝葉12~15tを腐葉土にして活用しています。枝葉を粉碎できるレンタルカーを借用し経費を抑え、チップ化した枝葉を敷地内で有効活用している点は、斬新な取組みとして驚きの声！

間引いた樹木は必要な方に贈る等廃棄物減量にも積極的で、参加者からも熱心な取組みに感銘を受けたという声が挙がっています。季節に合わせた作業内容、社員の作業環境についても工夫を凝らしていました。また、「相模原のカザグルマを守る会」と協力し、事業所構内で生育している絶滅危惧種カザグルマも見せていただきました。社員一丸となって、自然環境保全に従事している様子に、大変刺激を受けました。



坂西精機株式会社では、建設当初から隣地の森林、周辺の自然環境に配慮した管理方法を徹底している点についてお話を伺いました。なかでも周辺に生息するホタルのために、車のライトが当たらないよう入ロスロープの角度を調整したり、人工の築山を用意したり、消灯時間を早める“ホタル月間”を設けたり、ハード・ソフト両面から熱心に取組んでいる環境配慮型施設である点について、ご紹介いただきました。

社長自ら率先して清掃活動を行い、従業員に環境保全の大切さを説き続けた成果が、良好な環境の維持に繋がっています。参加者からも、会社組織の環境活動における目標の明確化が、従業員の環境に対する意識向上に寄与しており、非常に勉強になったとの意見が挙がりました。



事業所見学会・研修会

令和元年11月29日

茅ヶ崎市 都市部 景観みどり課

今年は、東邦チタニウム株式会社を訪問し、見学会及び研修会を実施しました。研修会では、茅ヶ崎市景観みどり課から景観法等について、産業振興課から工場立地法について、東邦チタニウム株式会社から緑化に関する取組み及び会社概要について、講演いただきました。参加者間の情報交換等も盛んに行われ、有意義な研修会でした。



研修会後は、東邦チタニウム株式会社工場内作業場を見学させていただきました。工場内の樹木が越境しないよう剪定する等、近隣に対する配慮を行う姿勢は大変参考になり、他にも東邦チタニウム株式会社の製品のチタンについても、新たな学びが沢山ありました。広大な敷地内の工場緑化を間近で感じる、大変参考となる事業所見学会となりました。

シンポジウム 相模川河畔林の環境活動

自然環境の保全を考え そして行動へ

令和元年12月8日

茅ヶ崎市 都市部 景観みどり課



相模川の河畔林を保全する活動の更なる広がりを目指して、「シンポジウム 相模川河畔林の環境活動 自然環境の保全を考え そして行動へ」（主催：相模川の河畔林を育てる会、茅ヶ崎市）が開催されました。

「自然環境の現状と今後の対処 相模川の河畔林を中心に」と題し、横浜国立大学 藤原 一繪 名誉教授による、茅ヶ崎市の自然環境の現状について、相模川河畔林内の写真を交えながら講演がありました。

パネラーとして当協議会代表トピー工業株式会社 田村久男会長、年数回 CSR 活動として保全作業を行っている、オーテックジャパン株式会社 緒方 俊夫氏が登壇。30名ほどの参加者が集い、活動内容について情報共有をしました。

田村会長には、当協議会の里山等保全事業における相模川河畔林の保全作業について、お話しいただきました。

